

寝取られ...

悪堕ち...

陵辱...

# 悪堕ちた艦

おちたふね  
ハジマサノ艦

スズネ屋 によう  
びせ!!

## 報告書類

満を持して出撃したと思われたステビア海への打通作戦は、慢心から生まれた油断により提督の思いとは裏腹に大いに苦戦を強いられたのだった。

多大な損害を受け撤退を余儀なくされた連合艦隊は、まさかの挟撃にあい、各艦は散り散りに逃げる羽目になった。

数多の敵がいる海域で「重巡洋艦 愛宕」は深海棲艦に遭遇。

随伴していた姉妹艦の高雄、駆逐艦島風を逃がすため殿(しんがり)をかってでる

2隻を逃がすことには成功したが、疲弊していた自艦は

敵の深海棲艦に**鹵獲**されてしまうのであった…



「…ここは…どこなの？ 真っ暗で何も見えないわあ…。  
いったいどうなっちゃったのかしら？」

高雄姉さんや島風ちゃんたちはちゃんと逃げられたかしら？

気味が悪いところね…あ、やだあ、艦装も探照灯もないじゃない…！  
これじゃ、あたりが照らせないわね、困ったわあ…」

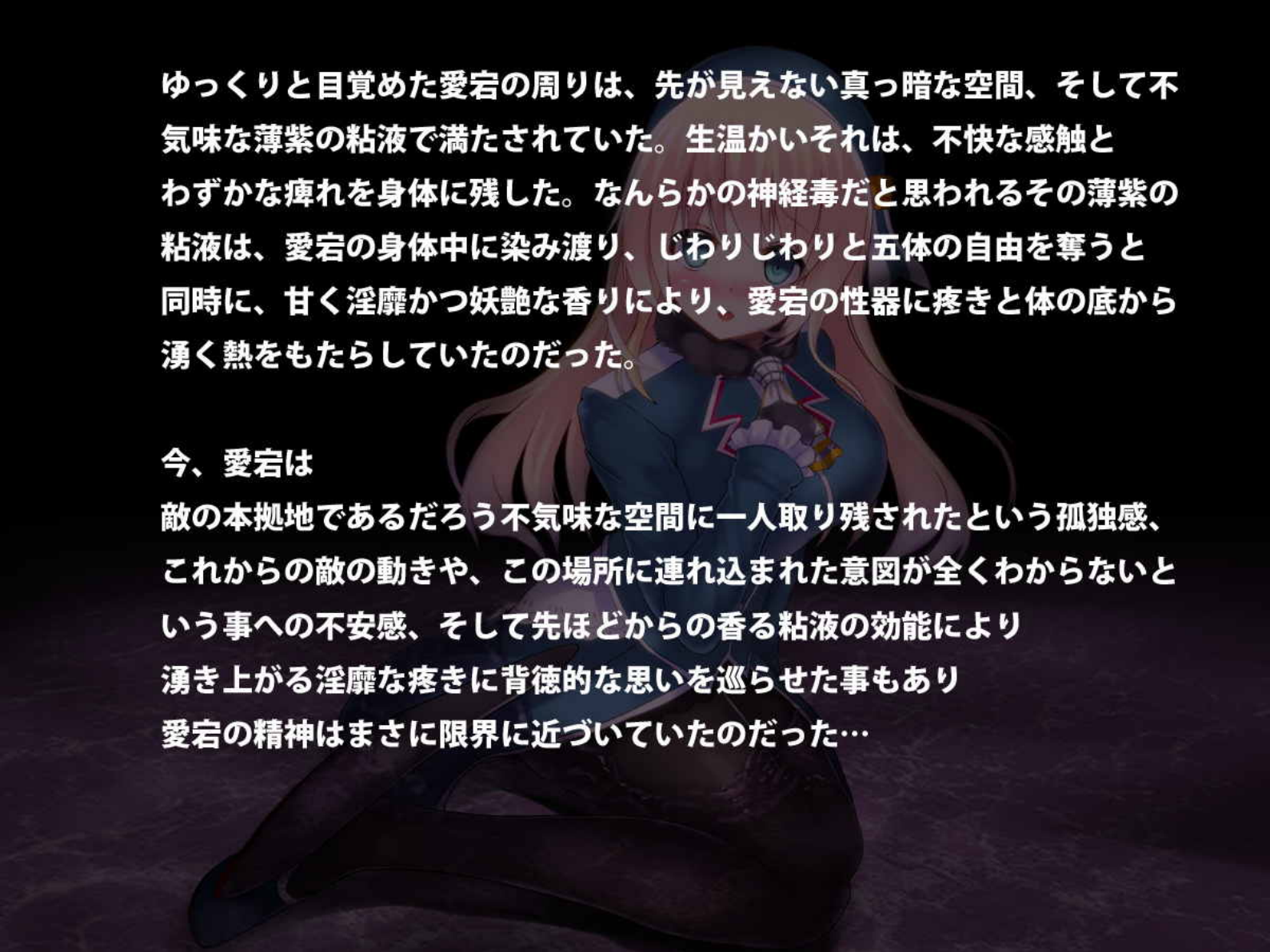


「ここのお水、なぜだか生ぬるいはね…、周りわ静かだけど…

だれもいないのかしら？ 多分深海棲艦たちの基地とかだと思っただけど…

誰もいないなら都合ね、今のうちに出口を見つけて鎮守府に帰らなきゃ  
提督やみんなも心配してるはずだものねえ…

あれ？ 足が…動かないわあ？ …え？」



ゆっくりと目覚めた愛宕の周りは、先が見えない真っ暗な空間、そして不気味な薄紫の粘液で満たされていた。生温かいそれは、不快な感触とわずかな痺れを身体に残した。なんらかの神経毒だと思われるその薄紫の粘液は、愛宕の身体中に染み渡り、じわりじわりと五体の自由を奪うと同時に、甘く淫靡かつ妖艶な香りにより、愛宕の性器に疼きと体の底から湧く熱をもたらしていたのだった。

今、愛宕は

敵の本拠地であるだろう不気味な空間に一人取り残されたという孤独感、これからの敵の動きや、この場所に連れ込まれた意図が全くわからないという事への不安感、そして先ほどからの香る粘液の効能により湧き上がる淫靡な疼きに背徳的な思いを巡らせた事もあり愛宕の精神はまさに限界に近づいていたのだった…





「なになに！ これ、なんなのよおおお！...!!  
いやあ！ 離して！ 気持ち悪い！ やめてやめてやめてってええ！  
なんで絡みついでくるのよお！ やだあ...うごけないよお！  
たすけて！ なによ！ なにするつもりなの...!!  
気持ち悪い気持ち悪い気持ち悪い気持ち悪いよおおお！」

「ぎやあああああああああ——！！」

やめてえ！ 触らないで！

「何をにらむ？ 入ってくる！ やめて！ なんてえ！」

ごわい！ ごわい！ ごわいよお！

入れないで！私の中に入って来ないでよお！」

ズズズ...

ズズズ...

ズズズ...

ズズズ...

「提督う...、お願い...たすけにきてえ...」





「もっ、やめてっつらあ…… やだよお

**そこはダメええ！**

こんなことやめてよ、もう帰して……

**ああん♡** ちょ、何処触ってるのよ

やめてえ…底は提督のためにとっておいてるの…

こんなとこで……だめえ…だめだよ！」





「あああん♡

だ、だめ♡声が出ちゃ言う♡

ち、乳首「リ」リしちゃだめえ♡あああん♡

ストッキング破いちゃダメえ!!

ど、同時に攻めるとか…ずるい♡

ああん♡ 気持ち悪いのに…やだ! 反応しちゃう♡

ああん♡ んんう♡

ダメえ…♡ 許してえ♡ 「レ以上はだめえ♡♡」



あああん♡

ああん♡

ああん♡

ああん♡

ああん♡

「はああ♡ はああ♡ はあ♡ はあ♡ はああ♡  
いやだ…感じたくないのに…身体が♡

もう、もうやめて…お願い…こんなことされたら…私…

鎮守府に帰れなくなっちゃう♡

提督に合わせる顔がなくなっちゃうわ…♡

だから…お願い…もう…終わりにしましょっ、ね？」

はあ♡  
はあ♡

はあ♡

あ♡

はあ♡

はあ♡

はあ♡

あ♡

はあ♡

「ん…まだ…誰…」



「きゃんッ♡」

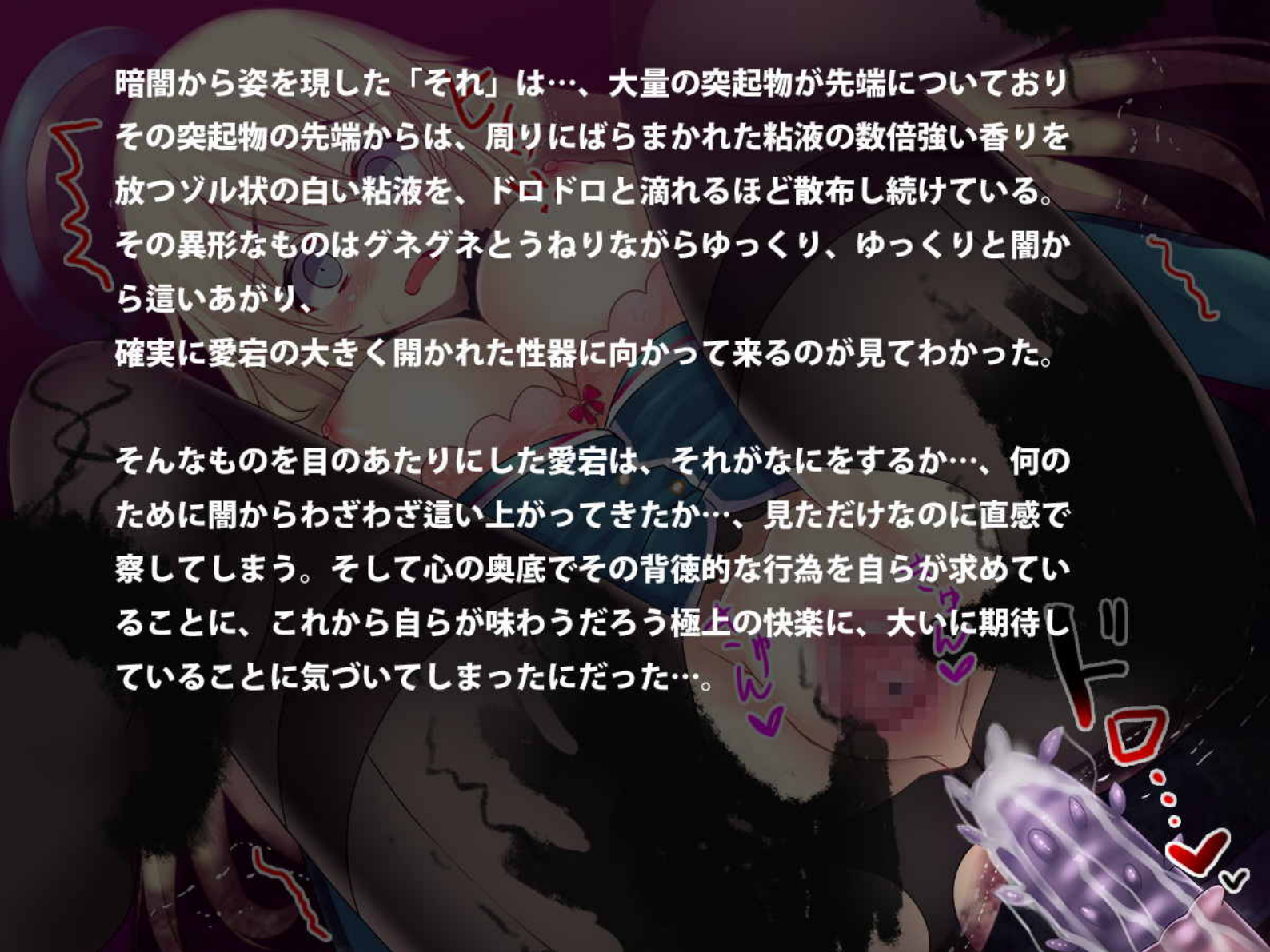
やだぁ、は、恥ずかしい!! こんな格好…ええ…? 力が入らない…  
もしかしてこの水のせいなの?  
う、うそ!! だめ!そこは絶対ダメ!  
ダメなの! お、おま○こ…そんな!  
は、離れて…! やめてええええええええ!

放して!お願い!

こんなのいやあああああ!」







暗闇から姿を現した「それ」は…、大量の突起物が先端についておりその突起物の先端からは、周りにばらまかれた粘液の数倍強い香りを放つゾル状の白い粘液を、ドロドロと滴れるほど散布し続けている。その異形なものはグネグネとうねりながらゆっくり、ゆっくりと闇から這い上がり、  
確実に愛宕の大きく開かれた性器に向かって来るのが見てわかった。

そんなものを目のあたりにした愛宕は、それがなにをやるか…、何のために闇からわざわざ這い上がってきたか…、見ただけなのに直感で察してしまう。そして心の奥底でその背徳的な行為を自らが求めていることに、これから自らが味わうだろう極上の快楽に、大いに期待していることに気づいてしまったにだった…。













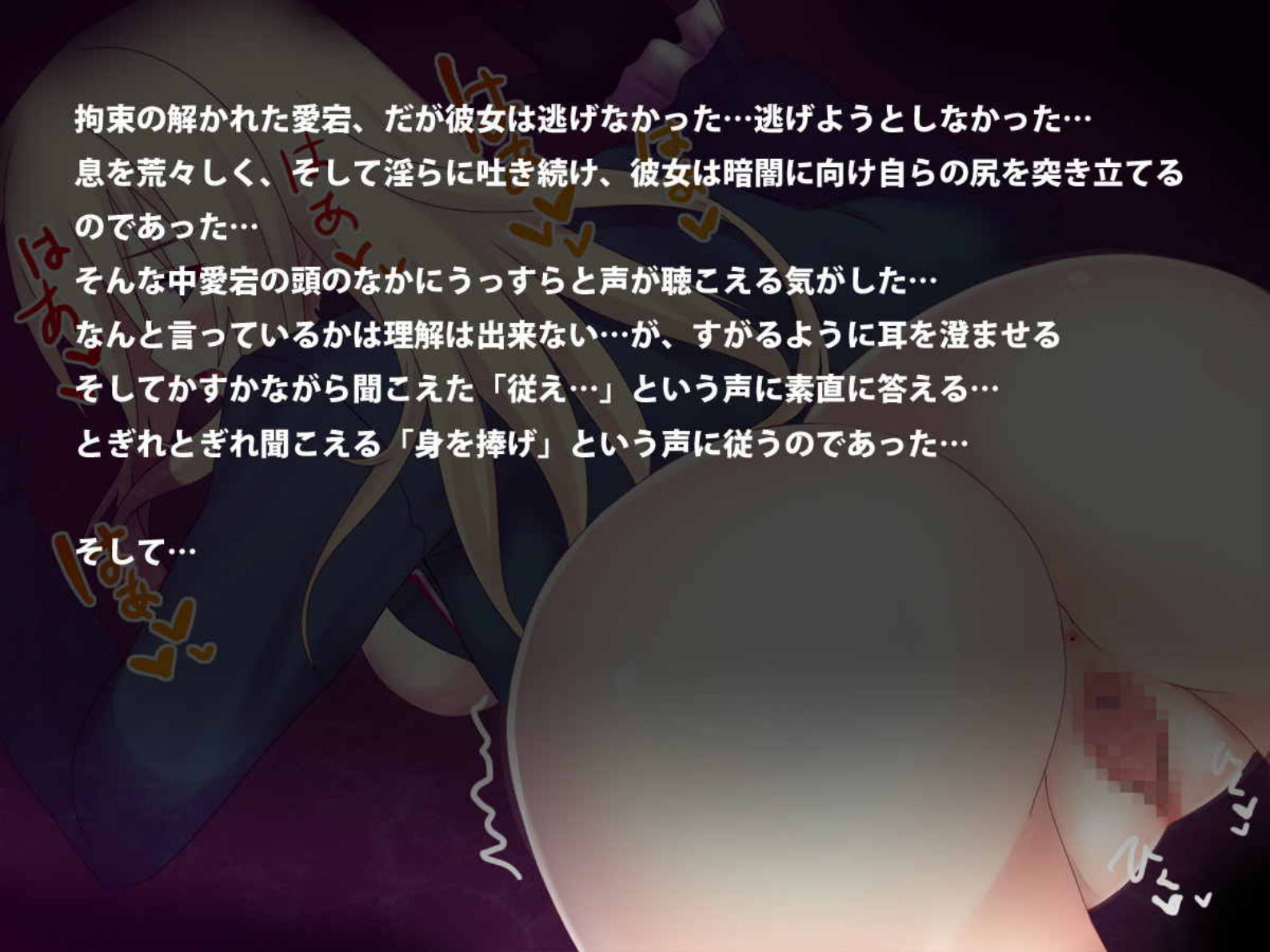












拘束の解かれた愛宕、だが彼女は逃げなかった…逃げようとしなかった…  
息を荒々しく、そして淫らに吐き続け、彼女は暗闇に向け自らの尻を突き立てる  
のであった…

そんな中愛宕の頭のなかにうっすらと声が聴こえる気がした…

なんと言っているかは理解は出来ない…が、すぐるように耳を澄ませる

そしてかすかながら聞こえた「従え…」という声に素直に答える…

とぎれとぎれ聞こえる「身を捧げ」という声に従うのであった…

そして…



(きたきたあああ♡♡♡♡♡)

さつきよりしゅごいのきたあああ♡♡♡♡♡

おしり攻められるの初めてえ♡♡♡♡♡

おしりしゅごい♡♡♡♡♡

オマ○コのもさつきより太い♡♡♡♡♡

いいのおお♡♡♡♡♡ 気持ちいいのお♡♡♡♡♡

もう壊れたっていい……♡♡♡♡♡

もっといじめて欲しいのお♡♡♡♡♡

もっとお♡♡♡♡♡ もっとお♡♡♡♡♡

こんなしゅごいち○ポ覚えたら…誰だっけ膚になるわあ♡♡♡♡♡

どうしよう……♡♡♡♡♡ 今すぐ幸せ♡♡♡♡♡

ここ残りたいってキモチでいっはいなのお♡♡♡♡♡

こんなにされちゃうんだったら…もう鎮守府のことなんてそうだっていい♡

おねがい♡♡♡♡♡ もっと…もっと気持ちよくしてえ♡♡♡♡♡

もっときもちいいこと教えてえ♡♡♡♡♡

おねがあっああい♡♡♡♡♡

♡♡♡♡♡(♡)

あほおし







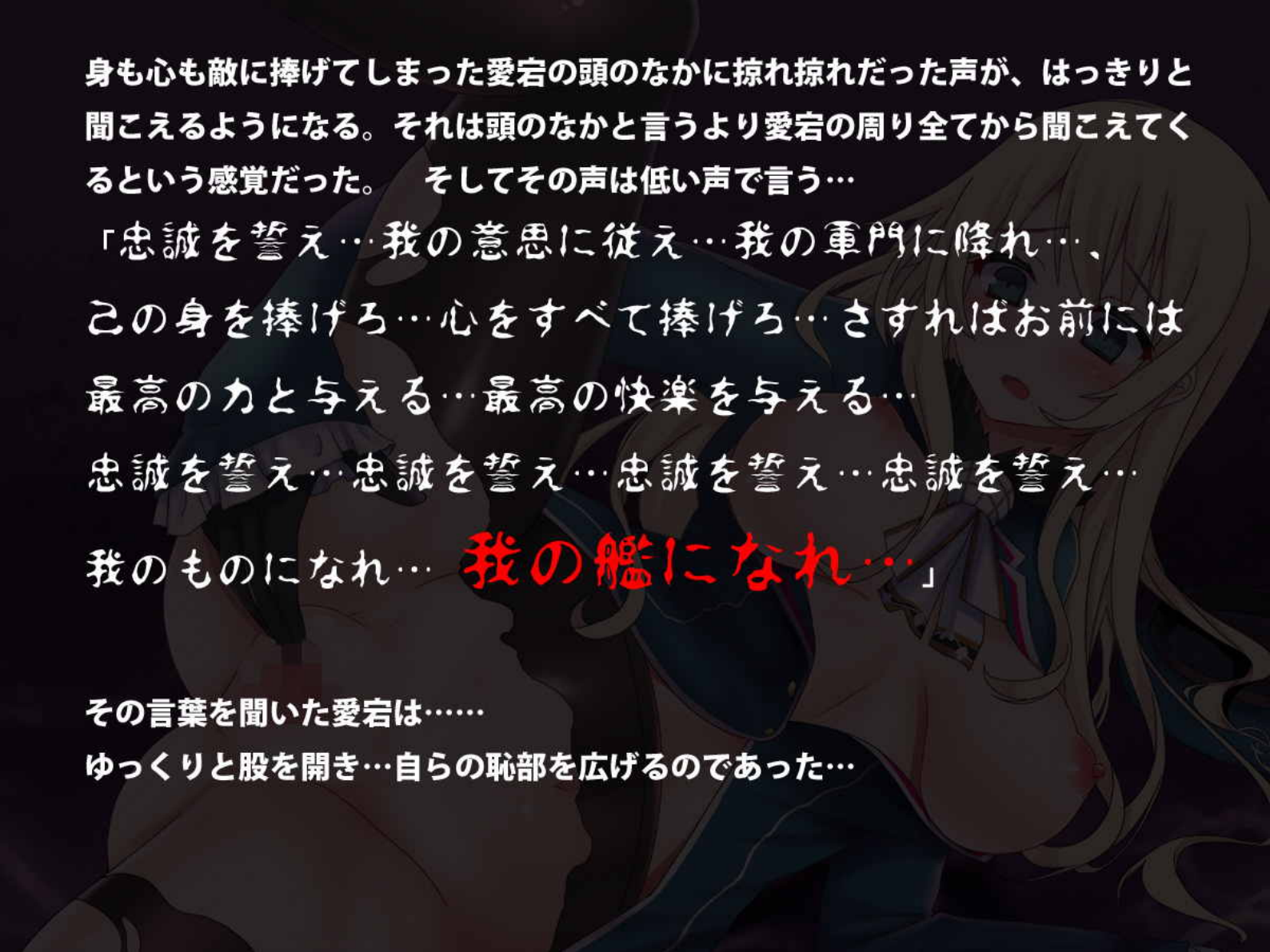
「はぁぁぁ♡♡♡♡♡ はぁぁぁ♡♡♡♡♡ はぁぁぁ♡♡♡♡♡  
 きききききよかったあぁ♡♡♡♡♡ 初♡♡♡♡♡  
 おま◯こも…お尻も…♡♡♡♡♡  
 ていこのじゃないの♡♡♡♡♡  
 あぁぁ…♡♡♡

もう…♡♡♡ 限界よぉお…♡♡♡♡♡  
 もう自分に…嘘つけないわぁぁ♡♡♡♡♡  
 ていこのうっ♡♡♡ ごめんなばぁぁ♡♡♡♡♡  
 愛宕は今ぁ♡♡♡ 敵の基地でえおす◯ほ中毒の  
 スケベ艦娘にされちゃいましたぁぁ♡♡♡♡♡  
 『こんなじゃみんなのトコには帰れなからぁ♡♡♡』

「ロロロ」  
 「ロロロ」

はぁ♡♡♡♡♡  
 はぁ♡♡♡♡♡  
 はぁ♡♡♡♡♡  
 はぁ♡♡♡♡♡

はぁ♡♡♡



身も心も敵に捧げてしまった愛宕の頭のなかに掠れ掠れだった声が、はっきりと聞こえるようになる。それは頭のなかと言うより愛宕の周り全てから聞こえてくるといった感覚だった。そしてその声は低い声で言う…

「忠誠を誓え…我の意思に従え…我の軍門に降れ…、  
己の身を捧げろ…心をすべて捧げろ…さすればお前には  
最高の力と与える…最高の快楽を与える…  
忠誠を誓え…忠誠を誓え…忠誠を誓え…忠誠を誓え…  
我のものになれ… **我の艦になれ…**」

その言葉を聞いた愛宕は……

ゆっくりと股を開き…自らの恥部を広げるのであった…



はぁ♡

はぁ♡

はぁ

はぁ♡

忠誠を誓え…我の意思に従え…我の軍門に降れ…  
この身を捧げろ…心をすべて捧げろ…さすれば  
お前には最高の力と与える…最高の快楽を与える…  
忠誠を誓え…忠誠を誓え…忠誠を誓え…忠誠を誓え…  
我のものになれ…**我の艦になれ…**





「はい…なります♡

わたし愛宕は…貴方の艦になります♡

貴方にすべてを捧げちゃいます♡♡♡♡♡

もう鎮守府には帰りません♡♡♡♡♡

貴方の…深海棲艦の船になります♡♡♡♡♡

私の身体も心も♡♡ おっぱいも♡♡ このおま〇こも♡♡♡♡♡

すべて貴方のものです。貴方のために、使ってください♡♡♡♡♡

愛宕がそう答えると、腹部の一部が熱を帯び、ゆっくりと刺青のようなものが浮き上がってきた。それは愛宕が深海棲艦に忠誠を誓った印… 鹵獲艦での印であり、元いた鎮守府を裏切ったことの烙印でもあった。

だが愛宕は古巣を、提督や仲間を裏切ったことへの背徳の気持ちを感じながらも、印が浮かぶ上がったことを心の底から喜んだのだった。



「これからお前は我が艦隊のために  
命を燃やすのだ。我のために生き、我のために働き  
我のために奉仕し続ける。その印は我のモノに  
なった証。」

私の船になれ。 我的女になれ」

「は、ありがとうございます。」

重巡愛宕、いえ、**深海棲艦愛宕**❤❤❤❤

この身は今日から一生貴方のものです❤❤

ご主人様❤❤❤❤❤❤



ここで愛宕の意識が一度と途切れる…その寸前の顔は満面の笑みであったが…  
恐ろしくも感じるほど、瞳の奥は赤くか輝いていたのだった…



どれくらいの時間がたったかは分からないが、愛宕は目を覚ました。  
また手足が動かない、だが先程までの手足がしびれるというような感覚はない。  
なにか大きなものに抑えられている、それも体全体を締め付けるような…  
しかし不快感は感じられない、むしろ全身から快感を感じる。  
先ほどとは比べられない疼きと喜びを感じる。そんな中愛宕は目を開いた…



「な、なにこれ…？ ああん♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡  
これしゅごい…♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡

ご、ご主人様？ 愛宕はどうなってしまうのですか？

ああん♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡ 気持ちいい♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡ でも怖いわ…

ご主人様あゝ♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡ ご主人さまああ♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡



「…………… お前はこれから生まれ変わる… 我の艦として…

我にふさわしい姿に…………… お前は生まれ変わる……………

今は眠れ… 静かに眠れ… 次目覚めた時…

お前は生まれ変わっている… 我の艦として… 我の女として…

ふさわしい姿に…」

(あああ…なにか切ない気持ち…♥♥♥♥♥ でも暖かい…♥♥♥♥♥ 何かしら…  
最初は怖かったけど…いまは心地良感じ♥♥♥♥♥  
私は生まれ変わるの…ご主人様の艦に… ご主人様の女に…♥♥♥♥♥  
ご主人様…♥♥♥♥♥ ごしゅじんさまあ…♥♥♥♥♥ ゴシユ…ジン…サマ♥♥♥♥♥)



(アレ… ナンダツケ? ナニカダイジナ事…忘れてタヨウナ…?  
イイカ…早く…生マレ変カワリタイ…♥♥♥  
ゴ主人様ノタメニ♥♥♥♥♥ ゴ主人様ノタメ…ニ…♥♥♥♥♥  
ワタシ…ゴシユジンサマノ…オンナニナルノ…♥♥♥♥♥)

愛宕を包んでいた大きな触手は徐々に愛宕の身体を飲み込んでゆく。  
触手の内側にも無数の触手があり、愛宕の性器や恥部などありとあらゆる  
器官を刺激し快楽を与えてくる。例の粘液も噴射され愛宕の意識はまた  
静かに溶けてゆく。



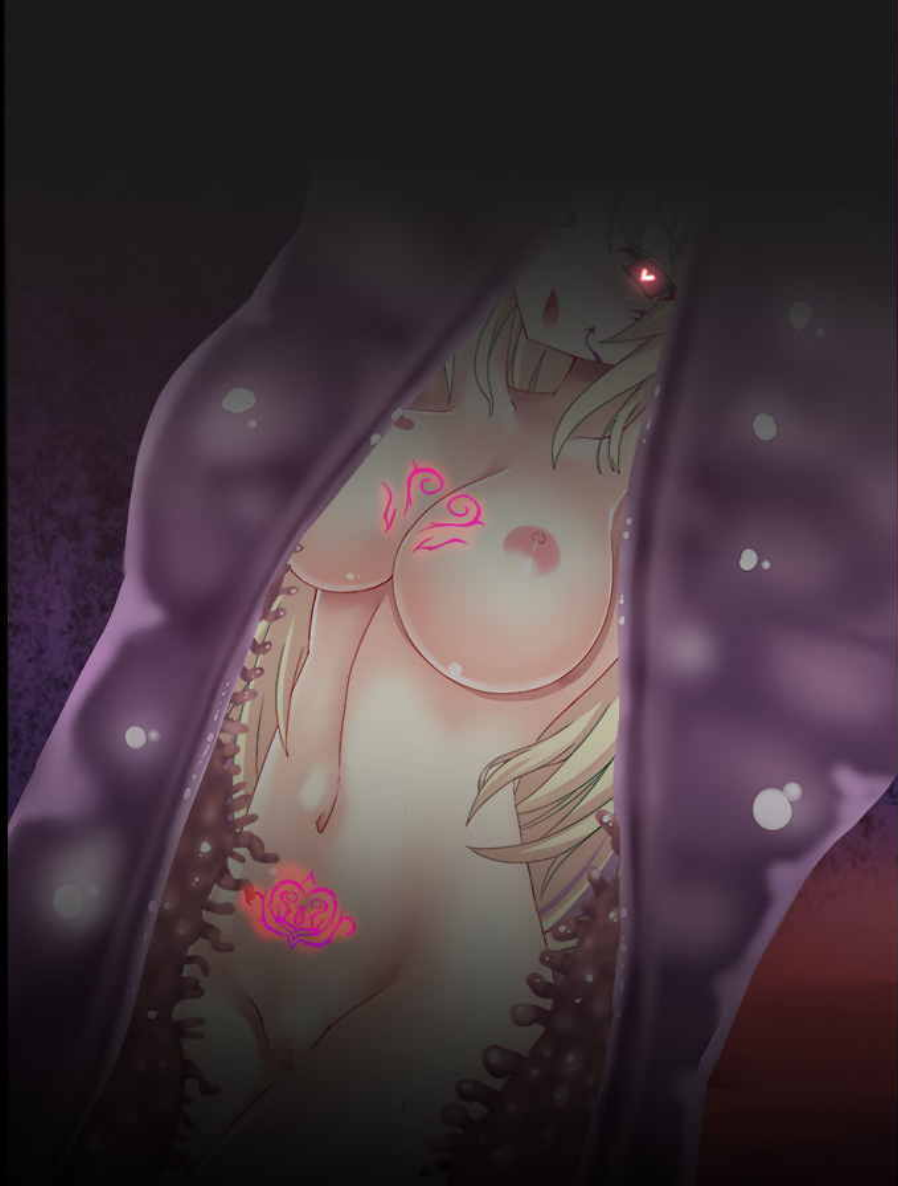
そして快楽を与えると同時に愛宕の耳から入り込んだ触手が脳を侵食する

…鎮守府での記憶…仲間たちとの記憶

作戦内容や鎮守府の全体戦力、提督への想いなど様々な記憶が読み取られ  
整理され、都合の良いように書き換え改ざんされてゆく……



愛宕は大きな触手ごと徐々に闇へと引きずり込まれる…  
数多の性感帯を責められ尽くした愛宕に、もはや意識はない。  
目覚めた時には闇から聞こえた声の通り、姿を変えているのだろう。  
愛宕が眠っているうちに…

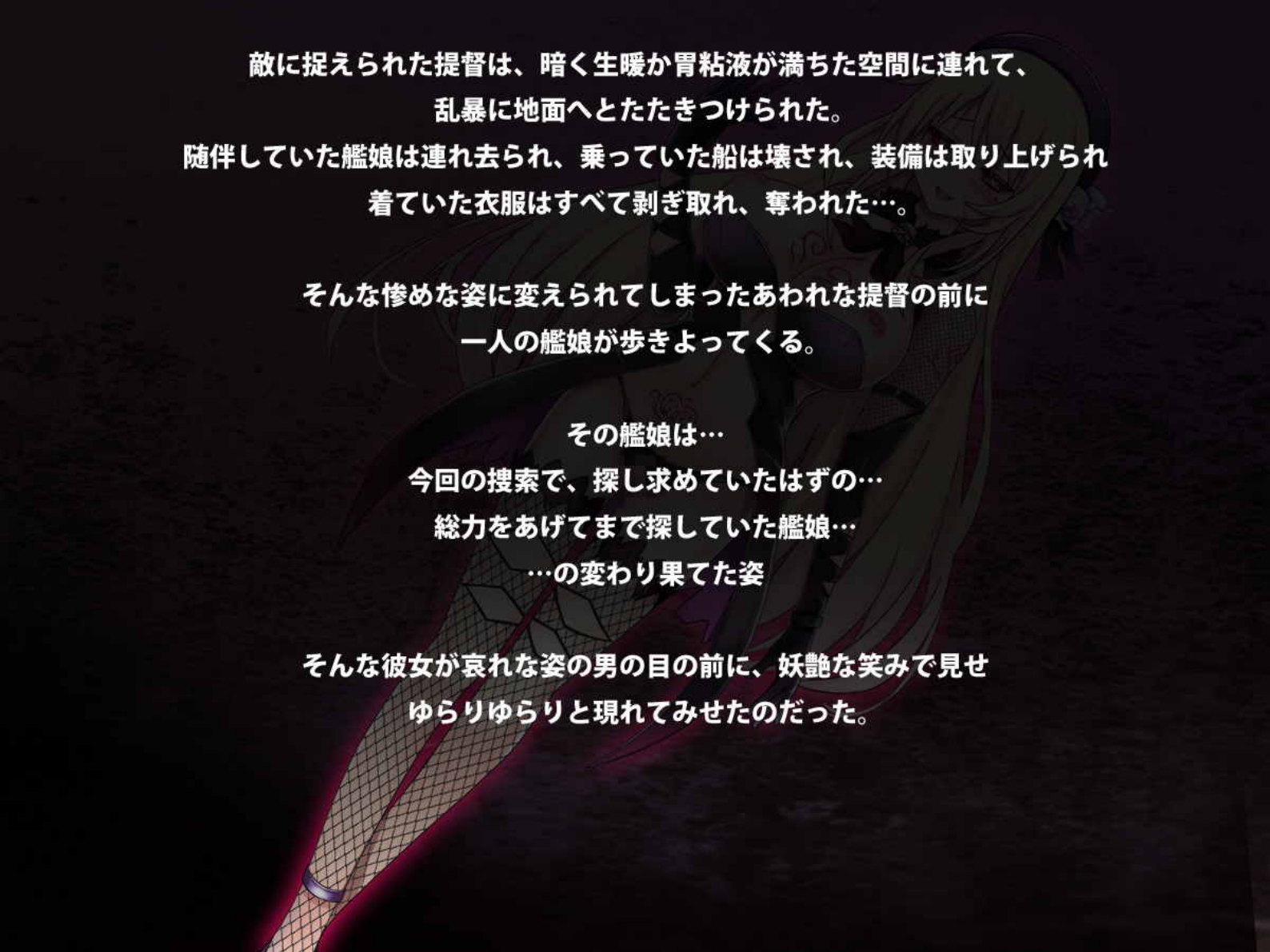


作戦が失敗に終わり、愛宕が行方不明になってから一週間が過ぎた…

佐世保鎮守府所属の提督…、彼は自身の失態を重く見て  
自ら搜索部隊の指揮を取り、愛宕搜索のための船を出した…。

搜索途中…

提督は…今まで見たことがない大量の敵に遭遇  
退却も試みるもすべての退路を絶たれた、こちらの策すべて通じない  
あがけどあかけども、じわりじわりと追い詰められ  
ついには捕縛されてしまうのだった…。



敵に捉えられた提督は、暗く生暖か胃粘液が満ちた空間に連れて、  
乱暴に地面へとたたきつけられた。  
随伴していた艦娘は連れ去られ、乗っていた船は壊され、装備は取り上げられ  
着ていた衣服はすべて剥ぎ取れ、奪われた…。

そんな惨めな姿に変えられてしまったあわれな提督の前に  
一人の艦娘が歩きよってくる。

その艦娘は…  
今回の捜索で、探し求めていたはずの…  
総力をあげてまで探していた艦娘…  
…の変わり果てた姿

そんな彼女が哀れな姿の男の目の前に、妖艶な笑みで見せ  
ゆらりゆらりと現れてみせたのだった。

ぱんぱかぱーん♡♡



なんちゃって♡♡

あらあ？ ゴミか何かかと思ったら提督じゃない♡♡

おひさしぶりー♡♡♡♡ つて私にとっては「元」提督かあ♡♡

そうしたんですかあ♡♡？ そんな深海魚みたいな不細工な泣き顔して♡♡

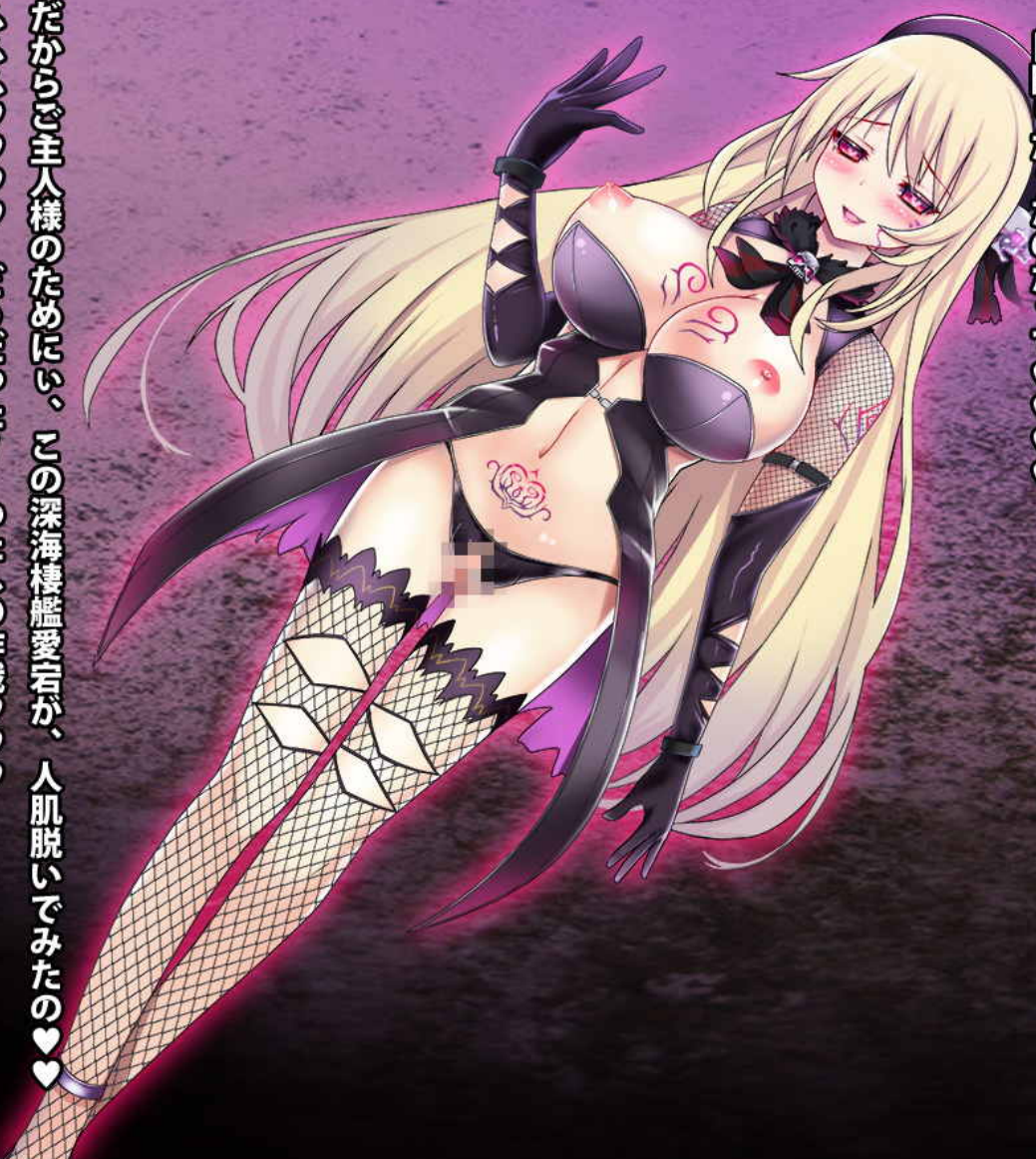
ふふふ、気持ち悪うっすい♡♡♡♡ あら、深海魚に失礼だったわあ♡♡

そんな惨めな格好なってまで私に会いたかったんですか？♡♡


なにそれえ♡♡ 最悪ですねえ♡♡♡♡ バカみたいですよあ♡♡

ふふふふふふふふ♡♡♡♡♡♡

実はね元提督う、私貴方にまた合う気なんて全然なかったのお♡♡  
ゴメンネえ♡♡♡♡でもさ、私の新しい提督…と言うより  
ご主人様が、貴方のことすっごく怒ってたあ♡♡♡♡  
目障りだったのだって♡♡♡♡



だからご主人様のために、この深海棲艦愛宕が、人肌脱いでみたの♡♡  
ふふふ♡♡♡♡ どうだった？ わたしの作戦♡♡♡  
貴方なんかのカビ臭あーくい戦術なんてせーくんぶお見通し♡♡♡  
途中簡単すぎてつまらなかつたわあ♡♡♡ ふふふ♡♡♡  
あくびが出ちゃう程にね♡♡♡ だからステビア海でも失敗するのぉ？  
ダメダメの無能司令官さん♡♡♡ あら？また泣くの？気色悪い♡♡♡



さてさてえ、貴方の事はすぐ殺せって言われてるのだけどお、  
私い、貴方の戦いがめるすぎて消化不良気味なお♡♡♡♡  
だから、チャンスっていうのかしら？

ちょっと楽しいお遊びをしましょ♡♡♡♡

私が今から貴方のことをいじめてあげるう♡♡♡♡

うれしうい？♡♡♡♡ ふふ、きもおい♡♡♡♡

それで私の事楽しませてくれたら、

♡♡♡♡でペットとして飼ってあげる♡♡♡♡

♡♡♡♡♡♡♡♡ 頑張って楽しませてね♡♡♡♡



「ええ？ もつ出そうなの？ あなた早漏にもほどがあるわぁ♡♡

私がいいって言うまで出しちゃダメ♡♡

私を楽しませるっていったでしょ？ わかってますかあ？

死ぬ気で我慢してね♡♡♡♡ じゃないとホントに死んじゃうよ♡♡♡♡

ふふふふ♡♡♡♡ 我慢♡我慢♡♡♡♡ わぁ♡♡必死な顔♡♡♡♡

さっきの不細工顔よりはカワイイわぁ♡♡♡♡

それ♡♡ ぞお♡♡それ♡♡ ぞお♡♡それ♡♡

ふふふふ♡♡♡♡ そんなに気持ちいいの？

足で大事なトコ踏まれてるのに？ 変態さんなのですわえ♡♡♡♡

イグイグ♡♡♡♡  
ムクムク♡♡♡♡

『おもしろーい♡♡♡♡ ちんちん踏まれて

こんな風になっちゃうんだ♡♡♡♡

なんかとろっつとでできたあ♡♡♡♡

我慢汁♡？ 限界なんじゃない♡♡♡♡

じゃあいいよ？ 出しても♡♡♡♡

でも一気に出して 服汚さないでね♡♡♡♡

この後ご主人様にお会いする時、イカ臭かったら

嫌われちゃうわ♡♡♡♡





「こんなに出しちゃってえ…♡♡

臭いくさ♡♡ でもまあそこそこ楽しめたわあ♡♡

じゃあ…え？約束？ ああ…ふふふ♡♡

必死ねえ♡♡ まあギリギリ合格ってトコかなあ♡♡

いいよ、お前を奴隷にしてあげる♡♡

うふふ…また言っちゃったの♡♡

だらしない奴隷ね♡♡ 今日から死ぬまで

私の事だけ聞きなさい♡♡ あと自由に射精なんかさせないんだから♡♡

ついてらっしゃい♡♡♡♡



そういうと彼女は椅子にしていた駆逐から降り  
奥へと進む、それに奴隷宣言をした提督だった  
男が這ってついて行く…

提督率いる搜索部隊が失踪してから数日たった。  
提督だった男の淫靡な奴隷生活は今も続いている……。  
深海棲艦本拠地の奥部屋からは今日も男の叫び声と  
かつて男の部下だった女の淫ら声と音が響き渡るのだった…。



「はぁい♡♡♡ 今日もたくさんしてあげてあげる♡♡♡

よろこびなさい、 奴隷♡♡♡ ふんふん♡♡♡

相変わらず粗末なおちんちんですね♡♡♡ かつおむち♡♡♡

なにその嬉しいそうな顔♡♡♡ ドM奴隷として自覚しちゃったのかな♡♡♡

それとも元から変態さん？ 高雄姉がっかりするだろっ♡♡♡



おはよう♡♡♡ 早くお目覚め♡♡♡

おはよう♡♡♡ 早くお目覚め♡♡♡

おはよう♡♡♡ 早くお目覚め♡♡♡

おはよう♡♡♡ 早くお目覚め♡♡♡

おはよう♡♡♡ 早くお目覚め♡♡♡

おはよう♡♡♡ 私にタンクドールをください♡♡♡

「あらっ、もう我慢汁が出てきた♡♡♡

ちゃんとかまんして出さなかったのわ♡♡♡

えらいえらい♡♡♡ 私の言いつけちゃん♡♡♡

でも我慢汁とまんないわ♡♡♡ ニゲス♡♡♡

いいわ、特別に舐めてあげる♡♡♡ そのおっぱい♡♡♡

すぐ出したら捨てちゃうから♡♡♡ わかった♡♡♡

♡♡♡ の顔♡♡♡ オンゲキを挿べらわならオッパイ

頑張って我慢しなさい♡♡♡ わかったわね？ ダメ奴隷♡♡♡

♡♡♡ じゃあいただきます♡♡♡

♡♡♡ ロロ入♡♡♡ ロロ入♡♡♡





「くんくん♡♡ しかも、うわあきさー♡♡♡♡♡  
童貞のダメチ○ポの匂い♡♡ サイアク♡♡♡  
我慢汁でこの匂いなら、射精したらもっと臭いのかな♡  
ふんふん♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡  
うれしい？ あ、そんな顔してる♡♡♡♡♡  
気持ち悪いな顔ね♡♡♡♡♡」











「ばんぱかばーん♡♡♡♡♡

おま○ことごたいめえらららん♡♡♡♡♡

とっつっ 嬉しくて声も出ならん♡♡♡♡♡

そつらえは声上げるなつて言つたんだつて♡♡♡

じゃあそのまま続けなとらん♡♡♡♡♡

今から声をあげずにいられたら、もっと可愛美あげる  
そのかわり、守れなかったら…♡♡♡♡♡

じゃあ覚悟してね♡♡♡♡♡ それじゃあほほほほほわあ♡♡♡♡♡















「はああ♡♡♡♡♡ああ♡♡♡♡♡

はああ♡♡♡♡♡ はああ♡♡♡♡♡

ふふふ、ダメ奴隷のくせに生意気さ〜♡♡♡♡♡

今日は特別に合格にしてあげる♡♡♡♡♡

はは♡♡♡♡♡

はは♡♡♡♡♡

頑張ったご褒美もあげるわぁ♡♡♡♡♡

ふふふふふ♡♡♡♡♡ でもまだ出るのね♡♡♡♡♡

これなら改造が待ちどっしりわ♡♡♡♡♡

良かったわね♡♡♡♡♡ 取り柄が合っ♡♡♡♡♡

お前をゲームン補給機に任命してあげる♡♡♡♡♡

ご主人様に頼んでくるわぁ♡♡♡♡♡

はははははははははははは♡♡♡♡♡

数日後、元提督は深海棲艦により  
身体の隅々まで調べ上げられ、あちらこちらに手が加えられた…  
どうやら本当に彼女が言うように肉体改造が施されたらしい…  
仮死状態にされまた例の部屋に運ばれる…

そして…

目覚めたら彼の上には、愛宕が淫らな微笑みを向けまたがっていた…



「ぶぶぶ♥♥♥ 改造しゅうりょうしました〜♥♥♥♥♥♥♥♥♥♥

あんまり変わってないみたいだけど大丈夫？♥

おち○ちん、粗チンのままよお？ ホント改造されたの？

せっかく味見してあげようかと思っただのに〜

期待だけさせといて、ほんと使えないゴミクス奴隷ね♥♥

ぶぶぶぶ♥♥♥♥♥♥ あら〜」







「ああん♡♡♡♡ これ、いいわ♡♡♡ 腰が動いちゃう♡♡♡  
 あああん♡♡♡♡ 見直しちゃった♡♡♡ ふふふふ♡♡♡  
 あああん♡♡♡♡ あはああん♡♡♡♡ もうとまんなあ♡♡♡  
 あああん♡♡♡♡ 奴隷の子♡ポで声が出ちゃう♡♡♡  
 あああん♡♡♡♡ あん♡♡♡ あああん♡♡♡  
 あああ、ち♡ほに溶かされちゃう♡♡♡  
 ご主人様の改造は完璧だわあ♡♡♡♡ あああ♡♡♡」

あーん♡♡♡♡

ちゅ♡♡♡

ん♡♡♡

あゝ♡♡♡





「あああ♡♡♡ はああ♡♡♡ はあ♡♡♡♡♡

やだあ♡♡♡♡♡ 出したら縮んじやたあ♡♡♡♡♡

しよっぱおおおい♡♡♡♡♡ なんだあこんなもんか♡♡♡♡♡

やっぱりお前はダメ奴隷のままね♡♡♡♡♡ クスクス♡♡♡♡♡

まあいいわ♡♡♡♡♡ そこそこ楽しめたし♡♡♡

それにこの後ご主人様にかわいがってもらおう事になってるから

お前がだらしなくても問題なの♡♡♡♡♡

それじゃ、またザーメン補充しておきなさい♡♡♡♡♡

それがお前の今後のお役目♡♡♡♡♡ ザーメンでなくなったら

捨てちゃうからね♡♡♡♡♡

はあ

はあ

はあ

はあ

はあ

「あ、そつそつ♡♡♡ お前を探しに高雄姉さん達が

近くまで来てるって聞いたから、お迎えを出しといたわ

一個師団ほど♡♡♡♡♡ これからは忙しくなるわ♡♡♡♡♡

姉さんをおもてなす準備もしなきゃ♡♡♡♡♡

ふふふふ♡♡♡♡♡ とおっても楽しみ♡♡♡♡♡

「



「ふふふふ じゃあ私はご主人様のかわいがってもらいに行くから  
お前はそこでザーメン補充してなさい♡

ああ、姉さん達がきたらお前も挨拶するのよ♡♡ わかった？  
じゃあね、変態DMのゴミクス奴隷さん♡♡♡♡

ふふふふ♡♡♡♡

ふふふふ♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡

また男の意識は闇へと落ちる…

薄れゆく意識の中最後に見たのは

妖艶で、淫らで、怪しくも美しい…

自身の主の笑みだった…

To be continued...?